

「昭和 100 年」関連施策実地レポート

このコーナーでは、内閣官房「昭和 100 年」関連施策推進室の室員が、各地で開催されている関連施策を訪問し、感想を含め皆様へご紹介します。

今回の訪問先は、東京都立川市と昭島市にまたがる広大な緑の拠点、国営昭和記念公園です。

国営昭和記念公園昭和 100 年関連イベント

URL : <https://www.showakinen-koen.jp/>

国営昭和記念公園では、昭和 100 年を記念した特別な 2 つの関連イベントが実施され、今回は、そのうち立川市における昭和時代について紹介する記念展示を中心に視察を行いました。

国営昭和記念公園は、昭和天皇御在位五十年記念事業の一環として、国が設置した日本を代表する国営公園です。計画面積 181.3ha という国際的にも有数の規模を誇り、現在はその約 93%にあたる 169.4ha が一般公開されています。本公園が位置する武蔵野台地の一面は、かつて大正 10 年（1921 年）に設置が決定された陸軍飛行場に始まり、戦後の昭和 20 年からは米軍の立川基地として接収されるなど、激動の昭和期において軍事・防衛の要衝としての歴史を歩んできた場所でした。転機となったのは、昭和 50 年末の総理府による記念事業の検討と、昭和 51 年 11 月の記念公園建設の閣議了承です。昭和 52 年に米軍から基地が全面返還されたことを受け、昭和 54 年 11 月の閣議決定によって正式に「国営昭和記念公園」としての設置が決定されました。そして、昭和 55 年の着工、昭和 56 年の都市計画決定を経て、昭和 58 年（1983 年）10 月 26 日に昭和天皇御臨席のもとで華々しく第一期開園を迎え、今日に至っています。「緑の回復と人間性の向上」を基本理念に掲げ、武蔵野の豊かな自然景観を蘇生させるとともに、大規模災害時には 12 万人以上の被災者を受け入れる広域避難地としての都市防災機能も兼ね備えており、まさに昭和の歩みを象徴し、未来へ伝える礎石としての役割を果たしています。

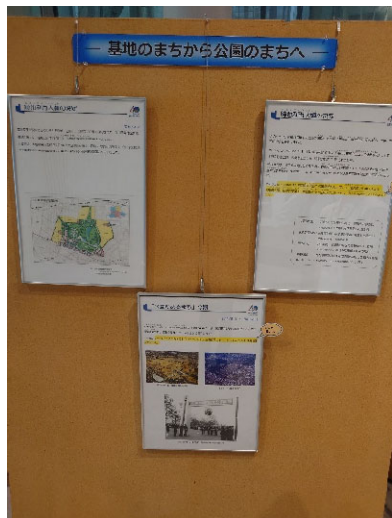


◆国営昭和記念公園

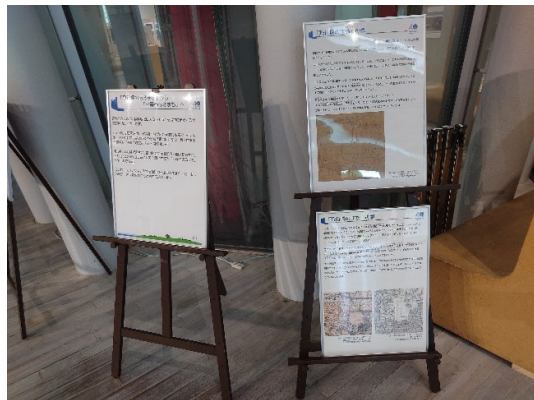
昭和 100 年を記念した記念展示は、公園の文化活動の拠点である花みどり文化センターにおいて実施されていました。

同展は、昭和記念公園が所有する貴重な歴史資料と、立川市歴史民俗資料館から特別に借りた当時の写真約 30 点を通じて、激動の時代昭和を中心に立川市内のまちの変遷を振り返る展示構成となっています。

かつて「基地のまち」として滑走路や軍事施設が広がっていたこの地が、飛行場の返還と情熱的な緑化事業を経て、日本を代表する「公園のまち」へと転換を遂げた軌跡は、激動の昭和を生き抜いた人々の力強い復興への歩みそのものです。都会の貴重な公共空間として愛される現在の公園の姿と、戦時期・占領期の激しい歴史的背景との対比が、見る者に深い感銘と「昭和」という時代の圧倒的なエネルギーを伝えています。同展をご覧になった来園者の反応として、展示された当時の街並みや人々の暮らしの写真を熱心に見つめ、昔の風景を懐かしむ声と共に、これまでの 100 年を省みて、これからの自分たちの暮らしや都市の未来について深く思索する様子が窺えるとのことでした。

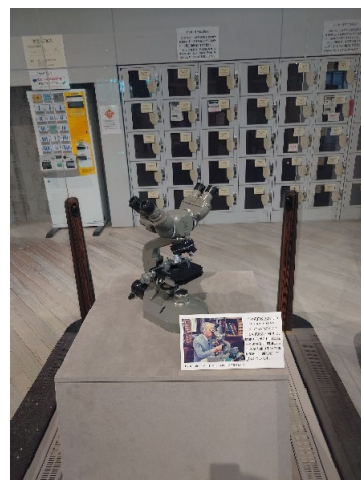


◆国営昭和記念公園



また、記念展示を行っている花みどり文化センターの隣には、昭和天皇の遺徳を伝え、生物学のご研究などの足跡を展示する「昭和天皇記念館」が併設されています。現在は、昭和100年の節目に合わせて昭和天皇記念館の大規模刷新・維持事業として模様替えの改修工事が行われており、残念ながらこの日は中を拝観することはできませんでしたが、展示内容を若い世代や関心の薄い層にも強く訴えかけるよう大幅に刷新し、戦後の復興や繁栄といった「昭和」の本質を誰もがわかりやすく直感的に理解できる最先端の博物館展示を目指して、リニューアル改修工事をおこなっているとのことで、新しく生まれ変わる記念館が、昭和という激動の時代を次世代へ継承していくための新たな架け橋になるのではと感じました。こちらについては、令和8年秋～冬頃に予定されているリニューアル改修終了後に改めてお伺いし、レポートしたいと思います。

今回の国営昭和記念公園への訪問は、広大な空間を持つ「基地から公園へ」という歴史の劇的な転換を体感するとともに、昭和という時代が遺した平和と緑のレガシーの偉大さを再認識する大変有意義な機会となりました。



会期：令和8年6月1日（月）から6月30日（火）

主催：国土交通省関東地方整備局国営昭和記念公園事務所

住所：東京都立川市緑町 3173